



Libretto ff 1100

大人の中の子供をくすぐる 日本のオリジナルデザイン

Libretto ff 1100は、“モバイルエンターテインメント”をコンセプトに生まれた。デザインも用途も“質実剛健”を絵に描いたようだった。今までの同シリーズとは、まったく異なる雰囲気の出上がりだ。

オーディオとカメラの不協和音

驚くのは、そのどちらも同じ人間によってデザインされたということだ。デザイナーは東芝デザインセンターの鈴木省吾氏。ただしff 1100では鈴木氏と“あうんの呼吸”の松岡健司氏が製品企画を担当した。

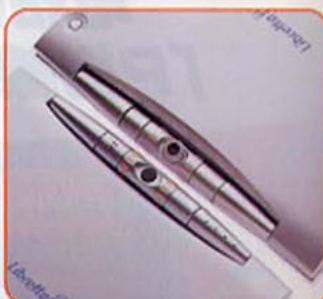
2人によると、ff 1100は、当初、音楽を手軽に楽しむことを目的に

開発が進められていたという。カバンに入れての移動時にはMP3プレーヤーとしても使えたら…という発想から生まれたリモコン「L.Shuttle」の形状や、キーボードのスケルトンの柔らかく絶妙な配色などは、確かにパソコンくささが抜け、ポータブルCDやMDプレーヤーといった音楽寄りの機器の雰囲気を併せ持っている。

しかし、「エンターテインメントをうたうのならカメラも必要では」という上司のひと言で状況は一転する。他社製品と同じ土俵に乗ることになるから…と1度は反対するが、どうせ付けるなら、カメラを目立たせる形でデザインを練り直

す。他の部分とのコントラストを意識したそのSFっぽいデザインは、着脱可能でリモコン操作も可能なメカと相まって、科学特捜隊の秘密兵器といった趣を呈している。マジンガーZ、ゲッターロボといったアニメに憧れた大人の子供心をみごとに刺激する仕上がりだ。洗練という言葉からは遠いかもしれないが、まぎれもなく日本オリジナルのデザインだ。

製品には、企画が変わるなか、あくまで音楽を主に置きたかったデザイナーの意思が不協和音としてほんの少し現れている気がする。消費者がこの製品のどの部分を評価するかが興味深い。



下側が企画段階のモックアップ。カメラ脇に付けたかったというインジケータは配線などの関係で断念。



前面部をポインティングデバイスとする案もあった。製品ではバッテリーを装着。空間使いがうまい。

PROFILE ● 酒井俊彦(さかいとしひこ)
サカイデザインアソシエイツ代表。87年東京造形大学卒業。通産省選定グッドデザイン賞、アビターレイテンが展出展(伊)、1995デザインの現在展出展(加)ほか。